

研究業績等に関する事項

種別	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌等 または発表学会等の名称	備考
著書	1『日本のオペラ作品』	単著	平成17年3月	昭和音楽大学	我が国でオペラ公演が行われるようになってから、多くのオペラ作品が創作されてきた。ただ、再演の機会に恵まれないまま、その楽譜や資料が散逸の危機にさらされている。そうした作品の目録を作ることの意義、さらにそれら作品を今後生かすための方策を提示した。さらに日本のオペラ作品リストを掲載した。
著書	2『三河市民オペラの冒険』	共著	平成23年7月	水曜社	日本各地で行われてきた市民オペラは、その成果よりも、実施したことの意義に注目されてきた傾向がある。しかし、三河市民オペラは、その成果を市民参加ということのみならず、芸術性を高めること、さらには赤字を出さないことに目標を定め成功した。その過程を記録、評価を試みた本書で、その意義を海外の音楽祭と比べて評価した。執筆箇所・第8章「三河市民オペラを分析する～オペラをつくるシステム」267～270ページ。著者：三河市民オペラ制作委員会、中山欽吾、竹田昌弘、峯島望美、恵川智美、石田麻子他
著書	3『オペラ演出家ベーター・コンヴィチューニ』	共著	平成24年4月	アルファベータ	ひとりのオペラ演出家の舞台演出および日本での活動を通じて、現代におけるオペラという舞台芸術の在り方を考察した。執筆箇所「我が国のオペラにおける公共性の転換点」133～139ページ。著者：山崎太郎、東条碩夫、石田麻子他
著書	4『クラシック・コンサート制作の基礎知識』	編集・共著	平成25年1月	ヤマハ・ミュージック・メディア	我が国のクラシック・コンサート制作現場の第一線で活躍する方々に基礎的な知識を執筆していただき、まとめた。執筆箇所「クラシック・コンサートを取り巻く環境」21～31ページ。著者：吉田純子、石田麻子他
著書	5「日本におけるワーグナー上演—戦前の<ローエングリン>初演から「日本型」上演の確立への歩み」『文藝別冊「ワーグナー」』	共著	平成25年7月	河出書房新社	リヒルト・ワーグナー生誕200周年を記念して、ワーグナーの上演史などをワーグナー研究者が執筆した。「日本におけるワーグナー上演—戦前の<ローエングリン>初演から「日本型」上演の確立への歩み」192～201ページ。著者：三宅幸夫、中矢一義、石田麻子他
著書	6『オーケストラ解体新書』	共著	平成29年9月	中央論新社	我が国のオーケストラの今後について、山田和樹・西村朗・石田麻子による鼎談。203～229ページ。読売日本交響楽団編。
著書	7『Corps et Message～De la Structure de la traduction et de l'adaptation』	共著	平成31年2月	Editions Picquier	“Jouer l'opéra au Japon: réception et tendances actuelles”, Asako Ishida
学術論文	1「日本の劇場運営におけるオペラ制作の課題」	共著	平成14年5月	長岡技術科学大学 研究報告第24号	我が国におけるオペラ制作が劇場を持たずに行われてきたことについてその詳細を述べ、課題について具体的に検討した。共同研究として執筆した論文であるため、分担詳細記載が不可能。共同著者：石田麻子、根木昭
学術論文	2「オペラ公演からみた日本の地域文化政策の考察」	単著	平成15年3月	昭和音楽大学 オペラ研究所 文部科学省特別補助 「オープン・リサーチ・センター整備事業中間報告書」	53～137ページ。 我が国で行われているオペラ公演を通して、地域文化の活性化への寄与の在り方、総合舞台芸術であるオペラ公演を支える地域文化政策の在り方を総合的に分析考察した。
学術論文	3「北九州圏域の潜在的舞台観客層に対する効果的なマーケティング手法の開発」	共著	平成15年12月	跡見学園女子大学 研究紀要	新しく開場した北九州芸術劇場周辺にいる観客層の調査結果を検証し、具体的なマーケティング手法に資する内容とした。共著：曾田修司、石田麻子
学術論文	4「オペラによる教育プログラムと観客」(査読付)	単著	平成16年3月	昭和音楽大学研究紀要第23号	オペラの観客拡大を目指して実施されている教育プログラムの事例とその効果について、詳細に調査分析、検討を行った。
学術論文	5「日本のオペラ公演2003」	共著	平成16年12月	日本オペラ団体連盟 『日本のオペラ年鑑 2003』	73～86ページ。 2003年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著としているものの、分析、文章部分の執筆は単著である。
学術論文	6「日本におけるオペラ公演の観客形成の一考察 —メディアとオペラ観客—」(査読付)	単著	平成17年3月	昭和音楽大学研究紀要第24号	我が国で行われている招聘オペラ公演の観客分析を実施、そこに現れた典型的な鑑賞行動を分析し、さらに放送などのメディアがオペラ観客の拡大に寄与している状況を分析。
学術論文	7「オペラ公演に関わる組織、観客および作品のマネジメント研究 —「劇場」を中心とした枠組みの構築に向けて—」(学位論文)	単著	平成17年12月	東京藝術大学博士論文 東京藝術大学音楽学部第87号	我が国におけるオペラ公演にかかわる団体、ホールなどの組織、観客の形成について、さらにはオペラ作品のマネジメントについて、具体的な数字をもとにしながら、オペラ公演実施に際しての我が国における劇場概念とはどのようにあるべきなのか、具体的に提示した内容。
学術論文	8「日本のオペラ公演2004」	共著	平成17年12月	日本オペラ団体連盟 『日本のオペラ年鑑 2004』	101～111ページ。 2004年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著としているものの、分析、文章部分の執筆は単著である。
学術論文	9「オペラの企画・制作における制約条件と対策—欧米の実例から得られる指針—」	共著	平成18年3月	昭和音楽大学 オペラ研究所 文部科学省特別補助「オープン・リサーチ・センター整備事業研究成果報告書」	47～65ページ。 オペラ公演の企画と制作において、我が国では団体と公演会場の運営が分かれていることにより、大きな制約がある。それについて、欧米と比較したうえで、対応策を検討した。共著：中山欽吾、石田麻子

種別	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌等 または発表学会等の名称	備考
学術論文	10「日本のオペラ団体とホール運営の現状－基礎データ調査からの読みとりを中心に」	共著	平成18年3月	昭和音楽大学 オペラ研究所 文部科学省特別補助「オープン・リサーチ・センター整備事業研究成果報告書」	335～348ページ。 日本のオペラ団体運営とホール運営に関するアンケート結果などから読み取った内容を分析し、現状を明らかにした。共著：下八川共祐、石田麻子
学術論文	11「日本における海外招聘オペラ」	共著	平成18年3月	昭和音楽大学 オペラ研究所 文部科学省特別補助 「オープン・リサーチ・センター整備事業研究成果報告書」	365～381ページ。 我が国における海外招聘オペラの歴史、現状について、企画制作の側面から分析、観客拡大などに果たした役割を明らかにした。共著：広渡勲、石田麻子
学術論文	12「日本オペラの公演制作における課題－レパートリー構築に向けて－」	共著	平成18年3月	昭和音楽大学 オペラ研究所 文部科学省特別補助 「オープン・リサーチ・センター整備事業研究成果報告書」	419～434ページ。 日本における創作オペラ作品は数多く生み出されてきたものの、それらが定着してレパートリー化するまでには多くの課題が残されているということを検証し明らかにした。共著：大賀寛、石田麻子
学術論文	13「日本のオペラ公演2005」	共著	平成18年9月	日本オペラ団体連盟 『日本のオペラ年鑑2005』	77～88ページ。 2005年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著としているものの、分析、文章部分の執筆は単著である。
学術論文	14「音楽を中心とした地域振興のあり方の一考察」	単著	平成19年3月	国土交通省 都市・地域整備局 平成18年度「都市観光の推進による地域づくり支援調査報告書」	142～155ページ。 日本各地で行われている音楽祭による地域振興の在り方について、具体例を提示しながら、その方向性について考察した。
学術論文	15「ブレゲンツ音楽祭」	単著	平成19年3月	国土交通省 都市・地域整備局都市・地域政策課	「都市・地域レポート2007」 オーストリアのボーデン湖畔の小さな都市で行われている大規模なオペラ・フェスティバルによる地域振興を報告した。
学術論文	16『海外オペラ・フェスティバル調査報告書』	単著	平成19年3月	新国立劇場 新国立劇場情報センター委託調査	新国立劇場の運営向上に資するため、ヨーロッパ各国の代表的なオペラ・フェスティバルの運営を現地調査した。それら具体例をまとめて、報告した。
学術論文	17「日本のオペラ公演2006」	共著	平成19年9月	日本オペラ連盟 『日本のオペラ年鑑2006』	71～83ページ。 2006年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	18「日本におけるオペラ制作研究の展開」 (査読付)	単著	平成20年3月	昭和音楽大学 音楽芸術運営研究所 『音楽芸術運営研究No.1』	1～11ページ。 日本において行われてきたオペラ制作の歴史的経緯をもとに、現在および今後の展開について、どのようにとらえるべきなのか考察した。
学術論文	19「日本のオペラ公演2007」	共著	平成20年11月	日本オペラ連盟 『日本のオペラ年鑑2007』	71～86ページ。 2007年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	20「日本の音楽マネジメント人材の育成をめぐる政策課題」(査読付)	単著	平成21年3月	昭和音楽大学音楽芸術運営研究所『音楽芸術運営研究No.2』	19～26ページ。 日本における音楽マネジメント人材を育成するために必要な政策を検証した。
学術論文	21「ヨーロッパのオペラ・フェスティバルにみる舞台芸術と観光の政策領域の融合」 (査読付)	単著	平成21年9月	日本音楽芸術マネジメント学会 『音楽芸術マネジメント』第1号	45～56ページ。 ザルツブルク音楽祭、ミュンヘン・オペラ・フェスト、ブレゲンツ音楽祭の3つを比較検証しながら、各国の音楽祭が果たす観光政策への役割をまとめた。
学術論文	22「オープン・リサーチ・センター整備事業」『調査研究実施報告と今後の課題について』	単著	平成21年11月	日本オペラ連盟 『日本のオペラ年鑑2008』	60～62ページ。 7年間にわたり実施した調査研究事業に関して、事業主催者の立場から、内容をまとめ、さらに今後の研究課題を抽出した。
学術論文	23「『こどもオペラ』の調査と考察Ⅰ」	共著	平成21年11月	日本オペラ連盟 『日本のオペラ年鑑2008』	63～73ページ。 国内で行われた子どもたちが舞台上に直接かかわるオペラ公演について事例検証した。共同原稿のため、自身の担当部分の抽出が困難。日本のオペラ年鑑こどもオペラ研究会編、執筆グループ：石田麻子、関根礼子、吉原潤
学術論文	24「日本のオペラ公演2008」	共著	平成21年11月	日本オペラ連盟 『日本のオペラ年鑑2008』	77～91ページ。 2008年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形だが、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	25「オペラを中心とした音楽情報・資料の収集および活用に関する調査研究」	共著	平成22年3月	昭和音楽大学 舞台芸術センター オペラ研究所 『オペラを中心とした音楽情報・資料の収集および活用に関する調査研究報告書』	全157ページ。 研究代表者：石田麻子 我が国で創作上演された日本のオペラ作品に関する音楽情報・資料を収集し、それらをリスト化して掲載し、今後の積極的な活用に関して検討を行った。研究代表者として、本研究を総括し、データ部分は研究所による著作となった。
学術論文	26「日本国内におけるジュニア・オーケストラの活動実態調査」	共著	平成22年3月	昭和音楽大学 『日本国内におけるジュニア・オーケストラの活動実態調査』 平成21年度昭和音楽大学共同研究報告書	全41ページ。 我が国におけるジュニア・オーケストラの活動実態を悉皆的に調査し、ヒアリングなどを交えながら課題を提示し、今後の活動に資する調査内容とした。共同原稿のため、自身の担当部分の抽出が困難。著者：中村晃也、石田麻子他

種別	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌等 または発表学会等の名称	備考
学術論文	27「海外における「こどもオペラ～2つの事例」	単著	平成22年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2009』	67～70ページ。 海外で行われた子どもたちが舞台上演に直接かかわるオペラ公演について事例検証した。
学術論文	28「日本のオペラ公演2009」	共著	平成22年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2009』	71～85ページ。 2009年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	29「作品委嘱からみた日本のオペラ制作の変容に関する一考察」(査読付)	単著	平成23年9月	日本音楽芸術マネジメント学会 『音楽芸術マネジメント』第3号	81～89ページ。 我が国で行われてきたオペラ制作の変容をオペラ作品委嘱を通じて検証した。
学術論文	30「日本のオペラ公演2010」	共著	平成23年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2010』	59～75ページ。 2010年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著である。
学術論文	31「オペラ演出アカデミーの開催成果と課題」	共著	平成24年3月	昭和音楽大学 舞台芸術センターオペラ研究所 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「オペラ劇場における人材育成システムに関する研究」成果報告書	212～223ページ。 びわ湖ホールで実施されたオペラ演出アカデミー開催の意義、今後の展望をまとめ、我が国におけるオペラ劇場人材育成の課題を提示した。共同著者：井上建夫、石田麻子
学術論文	32「海外の劇場組織等における人材育成」	単著	平成24年3月	昭和音楽大学 舞台芸術センターオペラ研究所 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「オペラ劇場における人材育成システムに関する研究」成果報告書	158～182ページ。 海外の歌劇場や音楽祭には付属の研修機関、研修システムが設けられているケースがある。それらの概要をまとめ、さらにその意義などを考察した。
学術論文	33「我が国における海外招聘オペラ公演の変遷～オペラにみる公的機関の関わりの変化～」(査読付)	単著	平成24年10月	日本音楽芸術マネジメント学会 『音楽芸術マネジメント』第4号	23～35ページ。 日本における海外招聘オペラ公演の開催状況の変遷からみた公的機関のオペラ公演への関わりの変化を分析した。
学術論文	34「我が国におけるオペラ劇場の人材育成の手法について～びわ湖ホールでの演出アカデミーの事例から」(査読付)	共著	平成24年10月	日本音楽芸術マネジメント学会 『音楽芸術マネジメント』第4号	121～128ページ。 オペラ演出家の人材育成に関するあり方を実践を通じて検証した。共同著者：井上建夫、石田麻子
学術論文	35「日本のオペラ公演2011」	共著	平成24年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2011』	80～95ページ。 2011年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	36「音楽芸術マネジメントの国際的動向—IAMAとFACPの参加報告とその考察—」(査読付)	単著	平成25年10月	日本音楽芸術マネジメント学会 『音楽芸術マネジメント』第5号	111～116ページ。 国際的な音楽マネジメントにかかる組織であるIAMAとFACP国際会議の役割と活動に関しての、実際に会議参加を通じた状況報告。
学術論文	37「日本のオペラ公演2012」	共著	平成25年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2012』	62～78ページ。 2012年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	38「日本のオペラ公演2013」	共著	平成26年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2013』	68～86ページ。 2013年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	39「日本におけるオペラ上演環境整備の経緯 I～ワーグナー上演からみた人材、団体の活動、鑑賞機会、会場整備の歴史」(査読付)	共著	平成26年12月	『音楽芸術マネジメント』第6号、 日本音楽芸術マネジメント学会	65～86ページ。 日本におけるオペラ上演環境整備にかかる歴史をワーグナー上演史からひもといた。
学術論文	40「オペラ・ヨーロッパin ヴェネツィア」	単著	平成27年3月	『音楽芸術運営研究』第6・7号、 昭和音楽大学	7～14ページ。 欧米の主要歌劇場が加盟するオペラ・ヨーロッパ国際会議での招待講演の記録と欧米の歌劇場運営の最新情報をまとめた。
学術論文	41「「オペラ情報ウェブデータベース」の概要と、その構築の意義について」	共著	平成27年11月	『音楽芸術マネジメント』第7号、 日本音楽芸術マネジメント学会	127～131ページ。 昭和音楽大学オペラ研究所で行っている「オペラ情報ウェブデータベース」構築の概要と意義をまとめ、今後の方向性を明示した。共同著者：根木昭、石田麻子、吉原潤
学術論文	42「日本のオペラ公演2014」	共著	平成27年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2014』	58～76ページ。 2014年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。

種別	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌等 または発表学会等の名称	備考
学術論文	43「フランスにおける劇場人材育成の現状～エクサン・プロヴァンス音楽祭を例に」(査読付)	共著	平成28年3月	『音楽芸術運営研究』第8号、昭和音楽大学	6月から7月にかけて毎年行われるエクサン・プロヴァンス音楽祭における人材育成の現状から、オペラ劇場人材育成のあり方を検証した。科研費(15K02198)による研究論文。共同執筆者:石田麻子、鈴木とも恵
学術論文	44「イタリアにおける劇場人材育成の現状～マルティーナ・フランカのヴァッレ・ディトリア音楽祭を例に～」(査読付)	共著	平成28年3月	『音楽芸術運営研究』第8号、昭和音楽大学	イタリア、マルティーナ・フランカで行われてるヴァッレ・ディトリア音楽祭における人材育成と運営の現状から、オペラ劇場人材育成のあり方を検証した。科研費(15K02198)による研究論文。共同執筆者:鈴木とも恵、石田麻子
学術論文	45「日本のオペラ2015」	単著	平成28年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2015』	24～30ページ。 2015年のオペラ公演を政策、制作、製作の観点から分析、記録した。
学術論文	46「日本のオペラ公演2015」	共著	平成28年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2015』	57～73ページ。 2015年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	47「韓国におけるオペラの受容と創造」	共著	平成29年2月	日本音楽芸術マネジメント学会 『音楽芸術マネジメント』第8号	23～34ページ。 韓国でのオペラ上演開始の経緯と現状、さらに創造活動の事例を検証した。共同執筆者:関鎖京、石田麻子
学術論文	48「スイスにおける歌劇場人材育成の現状:チューリヒ歌劇場を例に」	共著	平成29年3月	『音楽芸術運営研究』第9号、昭和音楽大学	25～35ページ。 チューリヒ歌劇場における人材育成の現状を調査まとめた。さらに歌劇場人材育成に関する調査研究の中間まとめを行った。共同執筆者:石田麻子、鈴木とも恵
学術論文	49「イタリアにおける劇場人材育成の現状:ミラノ・スカラ座研修所を例に」	共著	平成29年3月	『音楽芸術運営研究』第9号、昭和音楽大学	37～48ページ。 ミラノ・スカラ座研修所での人材育成の歴史的な経緯および現状を調査してまとめた。共同執筆者:鈴木とも恵、石田麻子
学術論文	50「オペラ人材育成の現在」	単著	平成29年4月	「ファビオ・ルイージ・オペリア・マスタークラス」プログラム	ファビオ・ルイージによるオペリア・マスタークラスのプログラムに、オペラ人材の育成の現状と意義について寄稿した。
学術論文	51「日本のオペラ2016」	単著	平成29年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2016』	24～31ページ。 日本で行われたオペラ公演を概括した。
学術論文	52「日本のオペラ公演2016」	共著	平成29年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2016』	58～72ページ。 2016年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	53「韓国国立オペラ団の歴史及び現状」	共著	平成30年2月	日本音楽芸術マネジメント学会 『音楽芸術マネジメント』第9号	27～41ページ。 韓国国立オペラ団のケーススタディを通じて韓国におけるオペラの創造活動に関してまとめた。共同執筆者:関鎖京、石田麻子
学術論文	54「イタリアにおける歌劇場人材の育成と地域経済への貢献の現状」	共著	平成30年3月	『音楽芸術運営研究』第11号、昭和音楽大学	5～19ページ。 ペーザロで開催されているロッシーニ音楽祭での人材育成および地域経済への貢献について資料をもとに論じた。共同執筆者:鈴木とも恵、石田麻子
学術論文	55「海外での学修機会の確保とその意義」	共著	平成30年3月	『音楽芸術運営研究』第11号、昭和音楽大学	77～89ページ。2016年度の海外研修の活動報告。
学術論文	56「オペラ劇場の現在～2018」	単著	平成30年6月	ダニエーレ・ルスティオーニ「オペラ歌手のためのマスタークラス」プログラム	世界のオペラ劇場を統率する人材からみた劇場運営の現状を分析、アジア各国に注目が集まっている状況もまとめた。
学術論文	57「日本のオペラ2017」	単著	平成30年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2017』	24～31ページ。 2017年に日本で行われたオペラ公演を概括した。
学術論文	58「座談会大野和士新国立劇場芸術監督に聞く」	共同	平成30年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2017』	59～71ページ。 新国立劇場の新芸術監督に就任した大野和士氏、音楽評論家の堀内修氏との座談会を収録。
学術論文	59「日本のオペラ公演2017」	単著	平成30年12月	昭和音楽大学 『日本のオペラ年鑑2017』	72～87ページ。 2017年に行われた我が国におけるオペラ公演を数字の面でまとめて分析、その特徴を提示した。日本のオペラ年鑑編集委員会との共著の形としているものの、分析、文章部分の執筆は単著。
学術論文	60「東アジアにおけるオペラの受容構造と創造活動」	単著	平成31年3月	『音楽芸術運営研究』第12号、昭和音楽大学	5～19ページ。 2018年11月に上海で行われた国際シンポジウムで、招待講演を実施した。その際他パネリストの発表や討論から得られた知見を通じて、中国を中心とするオペラの受容構造と創造活動をまとめた。
学会発表等	1「芸術文化サービスの提供を目的とするNPOによるコミュニティ活性化の試み」	共同	平成14年6月	文化経済学会<日本>	口頭発表 芸術文化サービスを提供するNPO法人の事例報告共同発表者:的場康子、石田麻子
学会発表等	2「日本におけるオペラ公演の観客形成の一考察—メディアと海外招聘オペラ公演の役割—」	単独	平成16年6月	文化経済学会<日本>	口頭発表 オペラ劇場がない中で行われてきた我が国における招聘オペラの歴史とメディアの在り方を検証し、観客形成に果たした役割を明らかにした。

種別	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌等 または発表学会等の名称	備考
学会発表等	3「日本型オペラ制作の得失と将来展望～オペラ制作および歌劇場運営に関する調査研究事業について」	共同	平成19年2月	主催：日立市 他	第11回全国オペラフォーラム記念講演 我が国におけるオペラ制作の在り方を検証したうえで改善点の提案をすべく、共同で講演した。共同講演者：中山欽吾、石田麻子
学会発表等	4「オペラ・フェスティバルにみる舞台芸術と観光の政策領域の融合～ザルツブルク、ミュンヘン、プレゲンツの事例から」	単独	平成20年11月	日本音楽芸術マネジメント学会 第1回研究大会	口頭発表 ザルツブルク音楽祭、ミュンヘンオペラフェスト、プレゲンツ音楽祭の運営等を具体的に比較して、それぞれの音楽祭が果たす観光と政策の双方の領域における役割を検証した。
学会発表等	5「作品委嘱からみた日本のオペラ制作の変容に関する一考察」	単独	平成22年11月	日本音楽芸術マネジメント学会 第3回研究大会	口頭発表 日本のオペラ作品の委嘱状況からみた我が国のオペラ制作の変容を考察した。
学会発表等	6「海外招聘オペラ公演からみた我が国におけるオペラ公演の変遷」	単独	平成23年11月	日本音楽芸術マネジメント学会 第4回研究大会	口頭発表 我が国で数多く行われてきた海外招聘オペラ公演の変遷をその公演形態、主催者等の項目から検証し、さらに公的機関がオペラにどのようにかかわってきたのか、その変化を考察した。
学会発表等	7「我が国におけるオペラ劇場の人材育成の手法について—びわ湖ホールでの演出アカデミーの事例から—」	共同	平成23年11月	日本音楽芸術マネジメント学会 第4回研究大会	口頭発表 日本で初めて行われたオペラ演出アカデミーの開催経緯、内容などについて、具体的にレポートし、その意義を明示した。共同発表者：井上建夫、石田麻子
学会発表等	8「日本におけるアートマネジメント教育のカリキュラムとモデル化に関する一考察」	共同	平成25年12月	日本音楽芸術 マネジメント学会 第6回研究大会	口頭発表 日本におけるアートマネジメント教育のカリキュラム分析とそのモデル化の試み。共同発表者：上村英郷、梶田美香
学会発表等	9「日本におけるオペラ上演の環境整備の経緯 I～ワーグナー上演史からみた人材、団体の活動、鑑賞機会、会場整備の検証から」	共同	平成25年12月	日本音楽芸術 マネジメント学会 第6回研究大会	口頭発表 我が国におけるオペラ上演環境整備の経緯をワーグナー上演の歴史を通じて考察した。共同発表者：吉原潤
学会発表等	10「オペラ情報ウェブデータベースの構築の意義とその概要について」	共同	平成26年12月	日本音楽芸術 マネジメント学会 第7回研究大会	口頭発表 オペラ研究所で推進しているオペラ情報ウェブデータベース構築の概要と意義についてまとめた。共同発表者：根木昭、吉原潤
学会発表等	11「韓国におけるオペラ受容と創造の現在」	共同	平成27年12月	日本音楽芸術 マネジメント学会 第8回研究大会	口頭発表 韓国におけるオペラ受容の現状について考察し、調査成果を発表した。共同発表者：関鎮京
学会発表等	12「韓国の国立オペラ団の歴史及び現状」	共同	平成28年12月	日本音楽芸術 マネジメント学会 第9回研究大会	口頭発表 韓国の国立オペラ団の運営について考察し、調査成果を発表した。共同発表者：関鎮京
学会発表等	13「地域との関係構築からみたオペラハウスのマネジメント～韓国・テグオペラハウスを事例に～」	共同	平成30年12月	日本音楽芸術 マネジメント学会 第11回研究大会	口頭発表 韓国のテグオペラハウスの運営について考察し、調査成果を発表した。共同発表者：関鎮京
2.寄稿・レポート	1「音楽祭をつくる町、音楽祭が作る町」	単著	平成20年4月	朝日新聞社	ザルツブルク音楽祭にみる運営面の分析などを具体的な数値をもとに行った。
2.寄稿・レポート	2「日本音楽芸術マネジメント学会の展開」	単著	平成21年7月	日本音楽芸術マネジメント学会 誌『音楽芸術マネジメント』第1号 寄稿	24～26ページ。 設立されたばかりの日本音楽芸術マネジメント学会が展開すべき方向性について、その理想的なあり方を提示した。
2.寄稿・レポート	3「オペラを中心とした音楽情報・資料の収集および活用に関する調査研究報告書」について	単著	平成22年9月	日本音楽芸術 マネジメント学会誌 『音楽芸術マネジメント』第2号 寄稿	123～125ページ。 日本のオペラ作品に関する音楽情報・資料を収集し、リスト化した調査研究の意義を明確にし、それら資料の散逸を防ぐための方策について考察した。
2.寄稿・レポート	4「日本のホールにおける芸術的リーダーシップのあり方～論点整理と考察～」	単著	平成23年9月	日本音楽芸術マネジメント学会 誌『音楽芸術マネジメント』第3号 寄稿	8～12ページ。 びわ湖ホール芸術監督沼尻竜典氏によるシンポジウムでの討議をもとに、我が国のホール運営において芸術上のリーダーシップをいかに発揮すべきかをまとめた。
2.寄稿・レポート	5 研究成果報告書「オペラ劇場における人材育成システムに関する研究」	単著	平成24年3月	日本音楽芸術マネジメント学会 誌『音楽芸術マネジメント』第4号 寄稿	141ページ～143ページ。 表題研究に関する概要およびその研究成果についてまとめ、人材育成のありかたへの提言に関しても今後のあるべき姿について、示している。
2.寄稿・レポート	6「ペーター・コンヴィチュニー公開講座&ワークショップ2009」	単著	平成24年3月	昭和音楽大学 舞台芸術センターオペラ研究所 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「オペラ劇場における人材育成システムに関する研究」成果報告書レポート	22～25ページ。 ドイツのオペラ演出家コンヴィチュニー氏が日本でオペラ演出家を育てるために実施してきた公開講座やワークショップの意義について、整理した。
2.寄稿・レポート	7「公開講座 ヨーロッパの歌劇場で歌うためには～オーディション、コンクールの実際」	単著	平成24年3月	昭和音楽大学 舞台芸術センターオペラ研究所 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「オペラ劇場における人材育成システムに関する研究」成果報告書レポート	48～55ページ。 ヨーロッパの歌劇場で歌うためには、数あるオーディション、コンクールに参加して、自己アピールをする必要がある。その適切な選り方を学ぶ講座内容をレポートした。

種別	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌等 または発表学会等の名称	備考
2.寄稿・レポート	8「シンポジウム オペラ字幕のありかたを考える」	単著	平成24年3月	昭和音楽大学 舞台芸術センターオペラ研究所 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「オペラ劇場における人材育成システムに関する研究」成果報告書レポート	59～83ページ。 現在のオペラ上演には欠かせない字幕導入の経緯、その後の歴史を検証し、今後の字幕の在り方を展望したシンポジウムの内容をレポートした。
2.寄稿・レポート	9「研究会 オペラ・フェスティバルを活用した観光・地域振興政策～オーストリア<プレゲンツ音楽祭>を例に」	単著	平成24年3月	昭和音楽大学 舞台芸術センターオペラ研究所 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「オペラ劇場における人材育成システムに関する研究」成果報告書レポート	98～101ページ。 オペラ・フェスティバルを中心に各国で行われている観光および地域振興政策について、プレゲンツ音楽祭を例にして、検証する研究会をレポートした。
2.寄稿・レポート	10「研究会 オペラ歌手育成の現在～ヨーロッパの歌劇場で歌うには」	単著	平成24年3月	昭和音楽大学 舞台芸術センターオペラ研究所 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「オペラ劇場における人材育成システムに関する研究」成果報告書レポート	134～138ページ。 オペラ歌手を目指す若手と、ヨーロッパの歌劇場で実際にオーディションを実施する側にいる方との間で行った研究会を詳細に報告した。
2.寄稿・レポート	11「沖縄にオーケストラは必要か」	単著	平成28年3月	琉球交響楽団15周年記念誌	琉球交響楽団設立15周年を記念した冊子に沖縄におけるオーケストラ活動の意義に関して、寄稿した。
3.プログラム等	1 ふたりでコンサートⅦ～オペラの楽しみ～	単著	平成22年11月	第一生命ホール 「ライフサイクルコンサート#54」	プログラム解説 オペラ・アリアを中心に取り上げて構成された演奏会のプログラム解説を執筆した。
3.プログラム等	2「コンサートホールでのオペラ」	単著	平成23年3月	いずみホール広報誌『Jupitar Vol.127』	6～7ページ。 いずみホールのような演奏会専用ホールで行われるオペラ上演の歴史的な経緯を読みやすくまとめた。
3.プログラム等	3 ふたりでコンサートⅧ～オペラの楽しみ～	単著	平成23年10月	第一生命ホール 「ライフサイクルコンサート#63」	プログラム解説 オペラ・アリアを中心に取り上げて構成された演奏会のプログラム解説を執筆した。
3.プログラム等	4「オペラ<カーリユー・リヴァー>の誕生～プリテンと能<隅田川>」	単著	平成28年6月	ソウル市オペラ団<カーリユー・リヴァー>公演プログラム	プログラム解説(韓国語翻訳) ソウル市オペラ団による世宗文化会館でのオペラ<カーリユー・リヴァー>公演のプログラムで、プリテンがオペラ作曲に至った経緯を日本訪問のエピソードを中心に解説した。
3.プログラム等	5 オペラ<コジ・ファン・トゥッテ>	単著	平成29年3月	第一生命ホール・林美智子の<コジ・ファン・トゥッテ>	プログラム解説 オペラ<コジ・ファン・トゥッテ>のあらすじを執筆した。
3.プログラム等	6「韓国のオペラ上演の現状とオペラ歌手～アジアから世界へ～」	単著	平成29年12月	藤原歌劇団<ルチア>公演プログラム	32～34ページ。 韓国出身のオペラ歌手達の世界での活躍状況をまとめた。
3.プログラム等	7「死者のためのミサ曲<レクイエム>」解説	単著	平成29年9月	大阪交響楽団第212回定期演奏会プログラム	9～10ページ。 大阪交響楽団定期演奏会プログラムで、ヴェルディの<レクイエム>について解説した。
3.プログラム等	8 オペラ<フィガロの結婚>	単著	平成30年3月	第一生命ホール・林美智子の<フィガロの結婚>	プログラム解説 オペラ<フィガロの結婚>のあらすじを執筆した。
4.新聞記事等	1 東京メールでの紹介記事	単独	平成25年10月	中国新聞	活動状況の紹介記事(写真つき)が掲載された。
4.新聞記事等	2 年末回顧「私の3点」	単独	平成25年12月	朝日新聞	同年のベスト・オペラ上演を紙上で選んだ。
4.新聞記事等	3「想」	単独	平成27年11月	中国新聞	活動状況の紹介記事(写真つき)が掲載された。
5.雑誌等	1 飯守泰次郎インタビュー	単著	平成26年5月	音楽の友5月号	66～67ページ。
5.雑誌等	2 世界の歌劇場付属アカデミー	単著	平成26年5月	音楽の友5月号	70～71ページ。
5.雑誌等	3 ヴァッレ・ディトリア音楽祭	単著	平成29年9月	モーストーリー・クラシック11月号	95ページ。
5.雑誌等	4 第2回国際アーツ・アドミニストレーション上海フォーラム	単著	平成31年2月	音楽の友2月号	
5.雑誌等	5 世界の話題 ドルトムント	単著	平成31年3月	モーストーリー・クラシック5月号	85ページ。